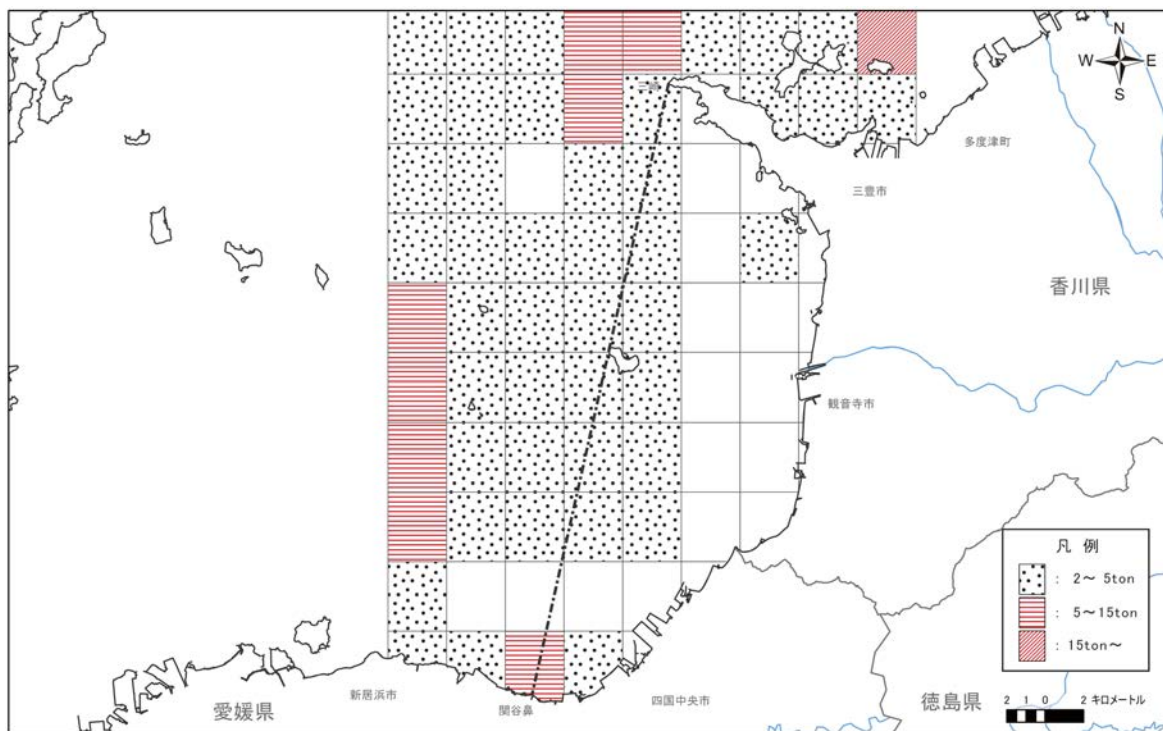


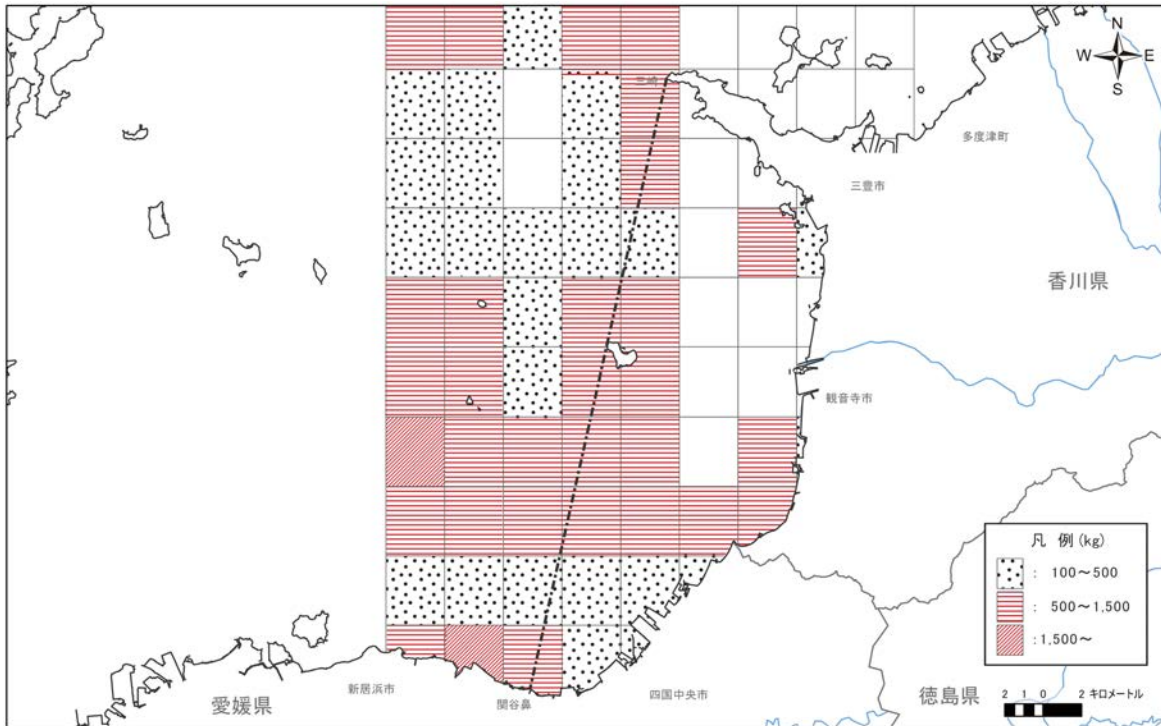
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 3.10(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



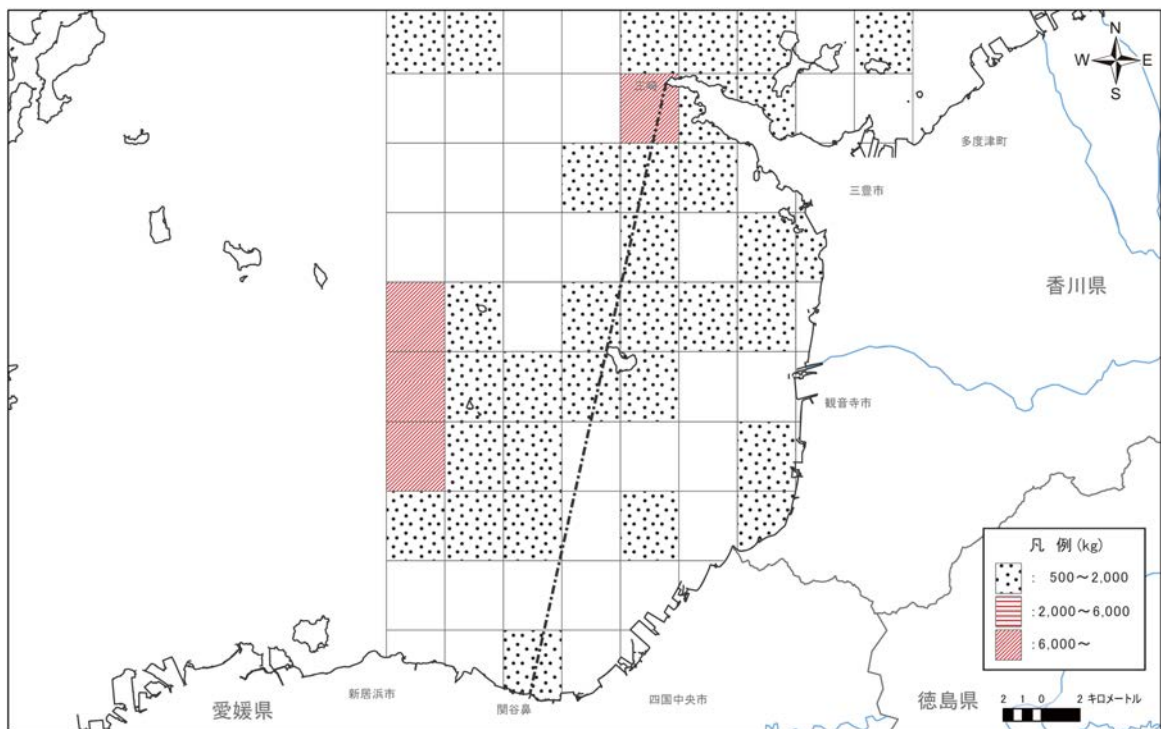
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 3.10(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）



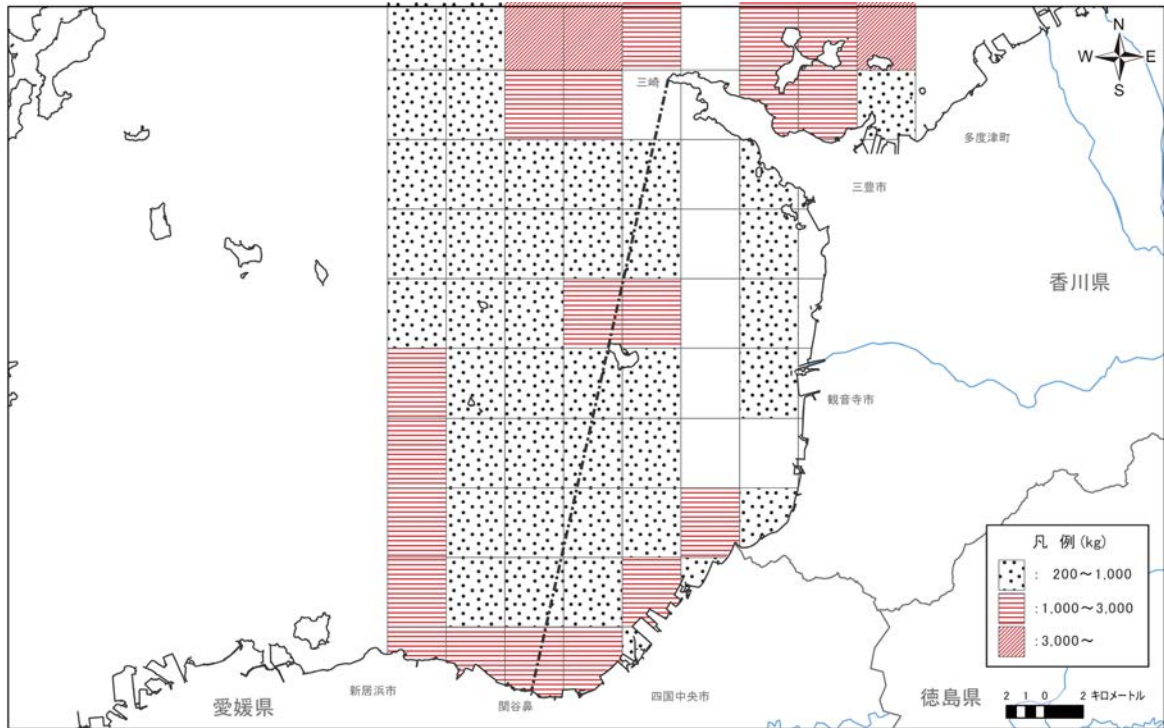
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 3.10(3) 主要魚種の漁場分布図（ヒラメ）



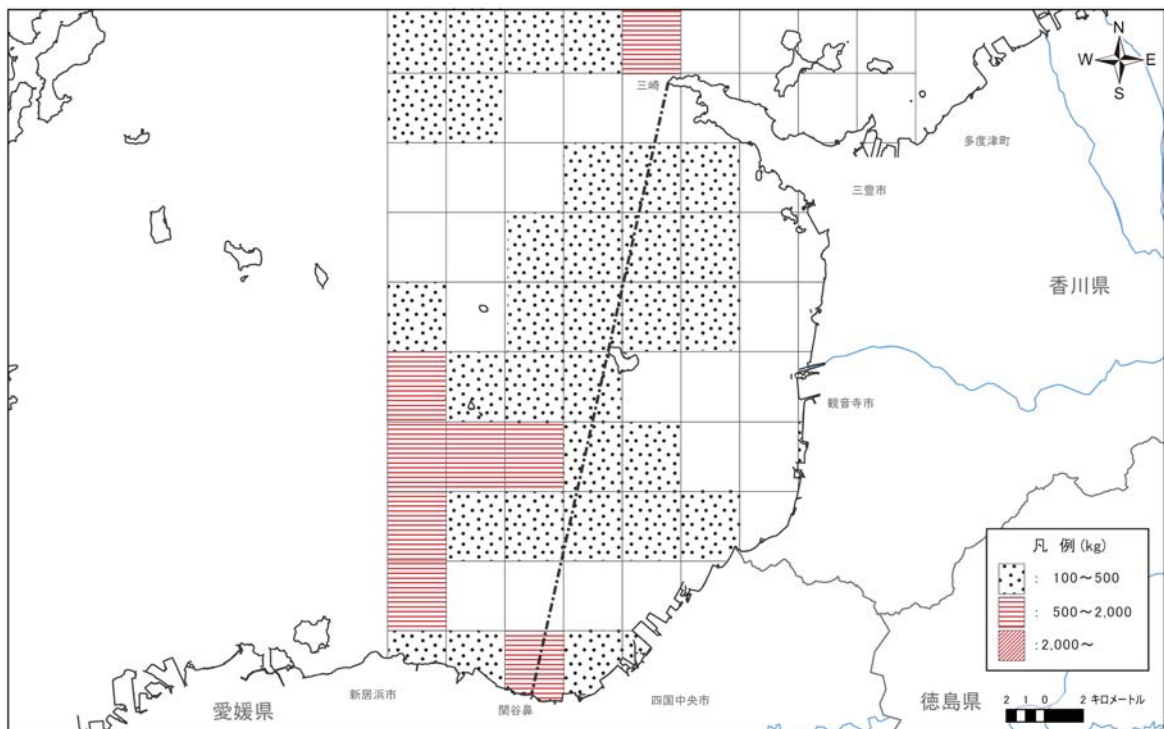
出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 3.10(4) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 3.10(5) 主要魚種の漁場分布図（ガザミ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

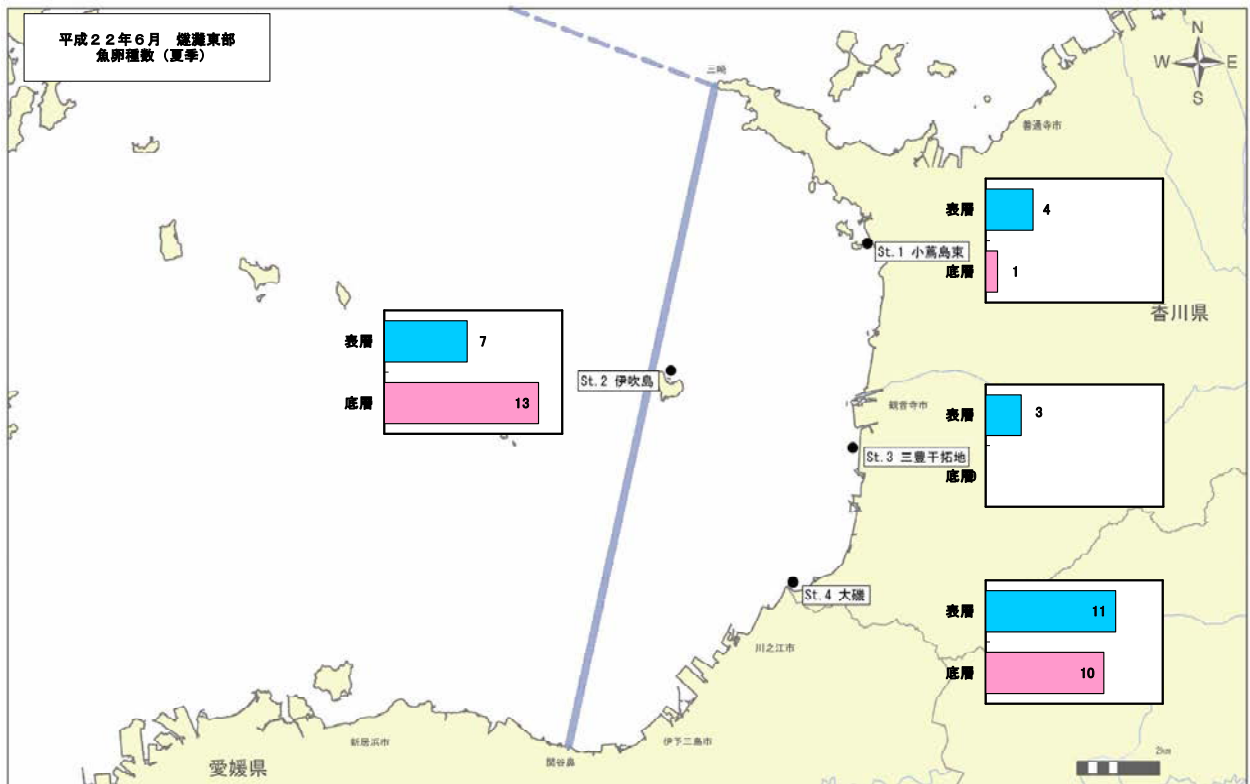
図 3.10(6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）

表 3.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	内 容
スズキ	卵は中央部の島しょ部藻場において確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。燧灘東部にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北部の浅場、中央部の浅場、中央部の島しょ部浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
イシガレイ	卵は確認されなかったが、稚仔魚は北部の干潟・藻場及び南部の藻場で確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵および稚仔魚は確認されなかった。ヒアリング調査結果及び既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の浅場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ヒラメ	卵は中央部の島しょ部藻場、及び南部の藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マダイ	卵は中央部の島しょ部藻場、及び南部の藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。燧灘東部にはマダイの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
ガザミ	卵は確認されなかったが、稚ガニは北部の干潟・藻場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から産卵場としては中央部の浅場を、生育場としては中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
クルマエビ	卵及び稚エビは確認されなかった。ヒアリング結果及び既存資料から産卵場としては中央部の浅場を、生育場としては北部の浅場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。

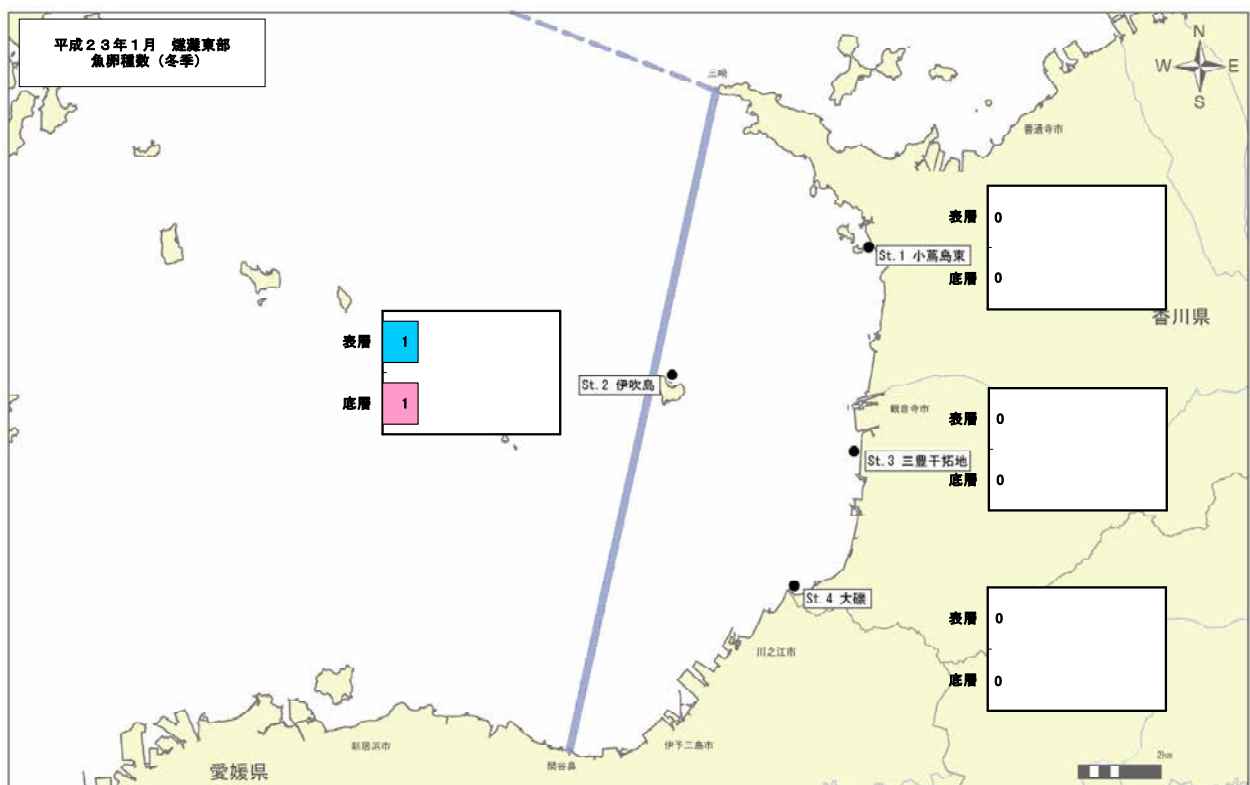
既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成



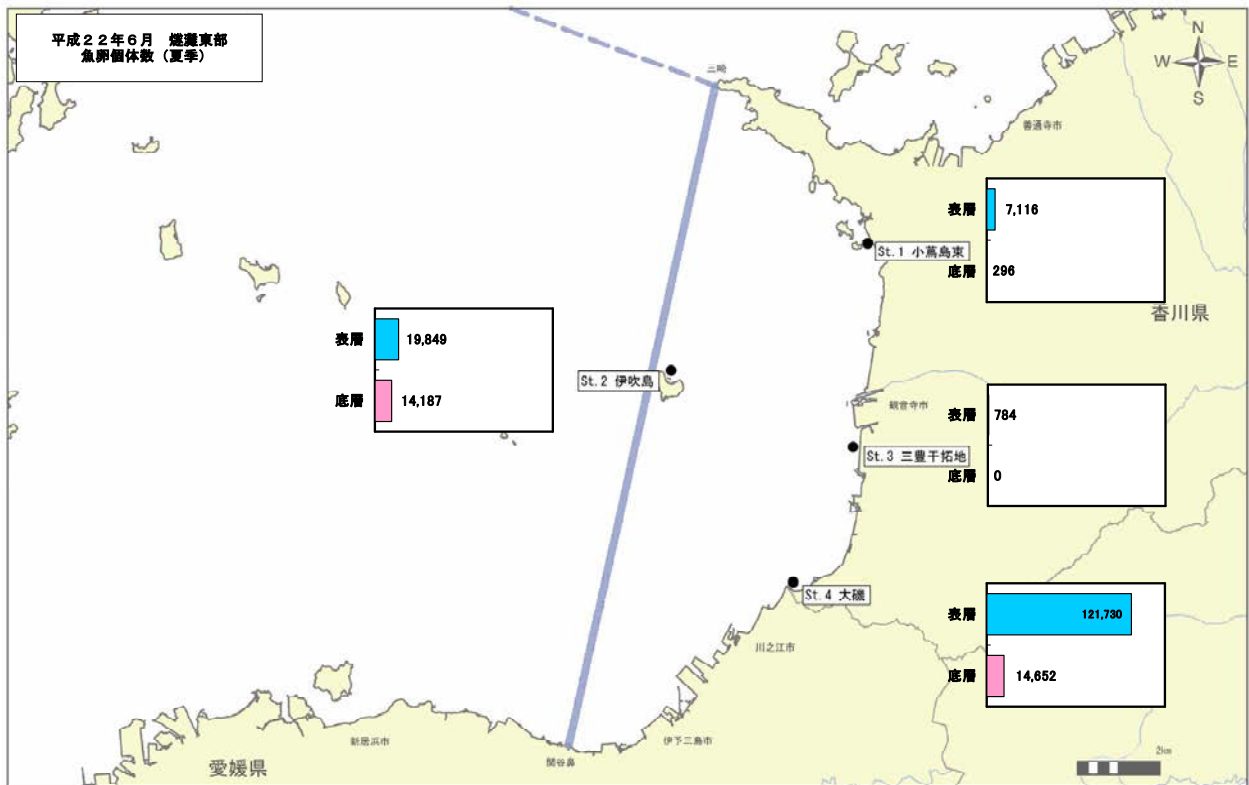
出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (1) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



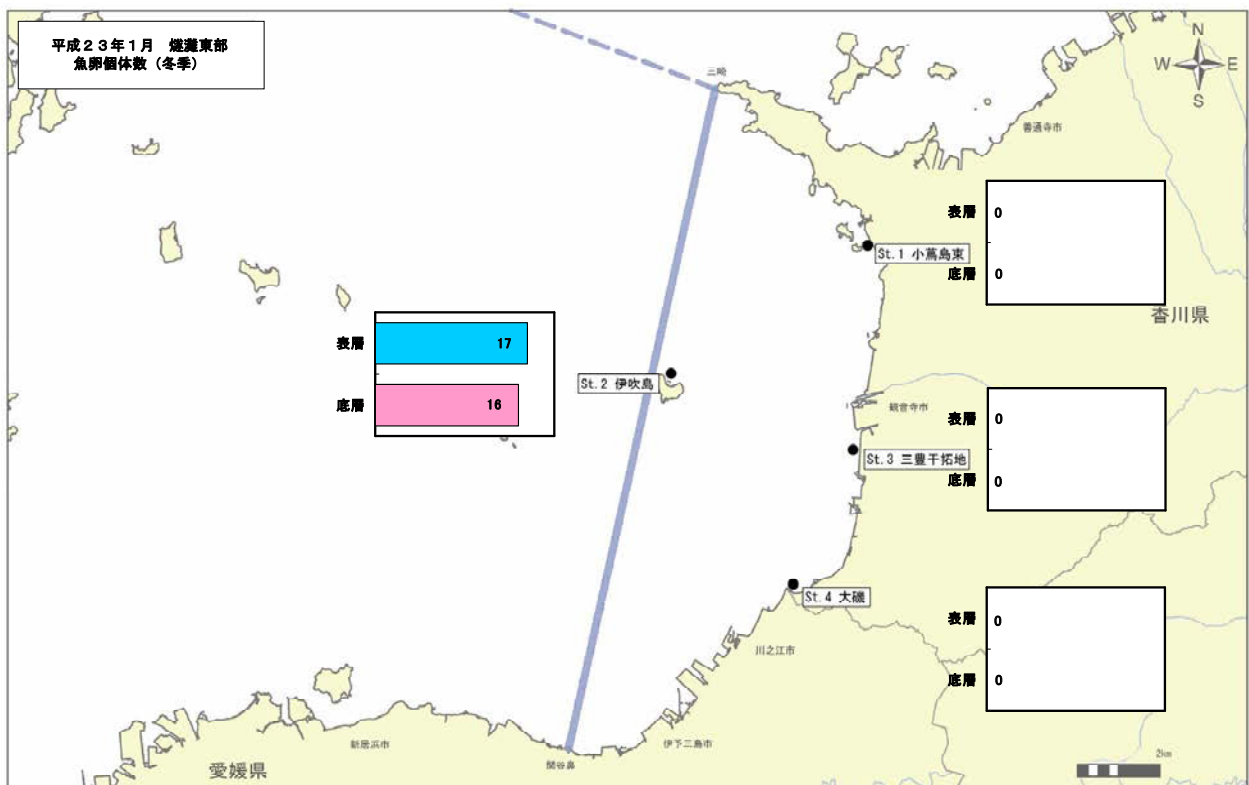
出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (2) 魚卵種数の出現状況 (冬季)



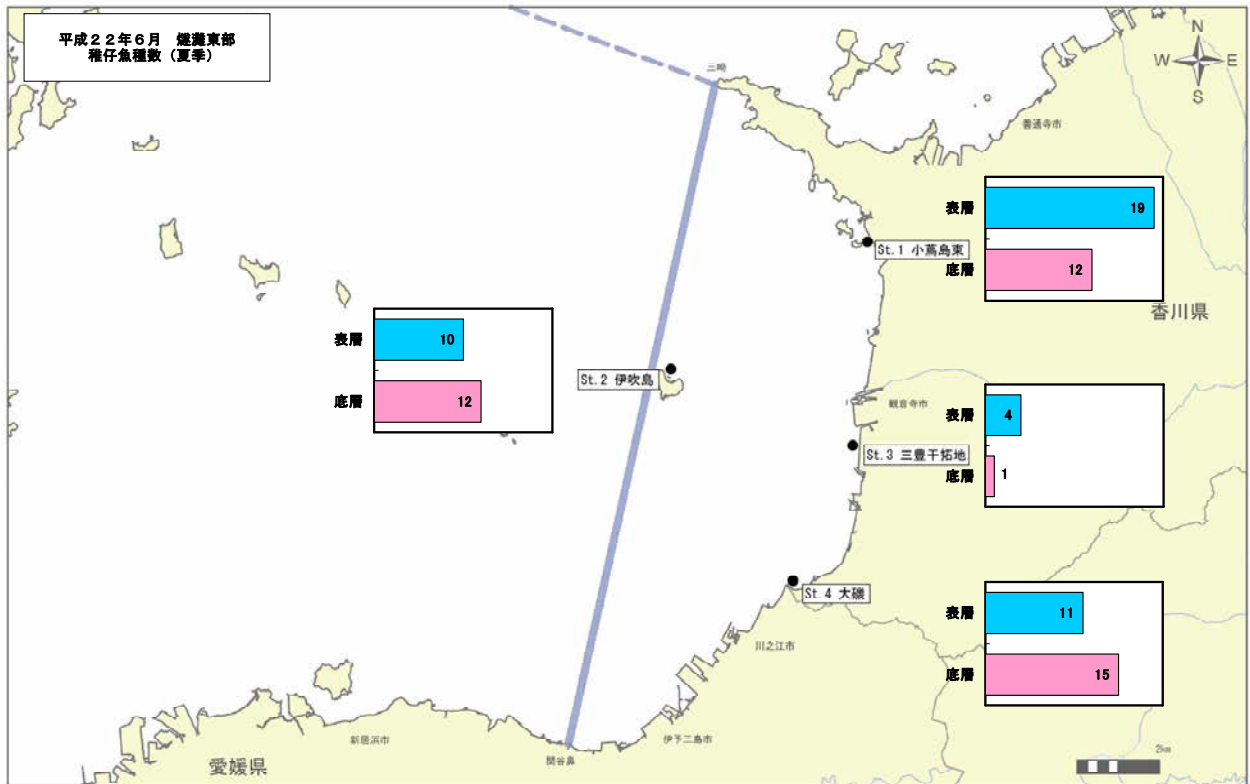
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (3) 魚卵個体数の出現状況 (夏季)



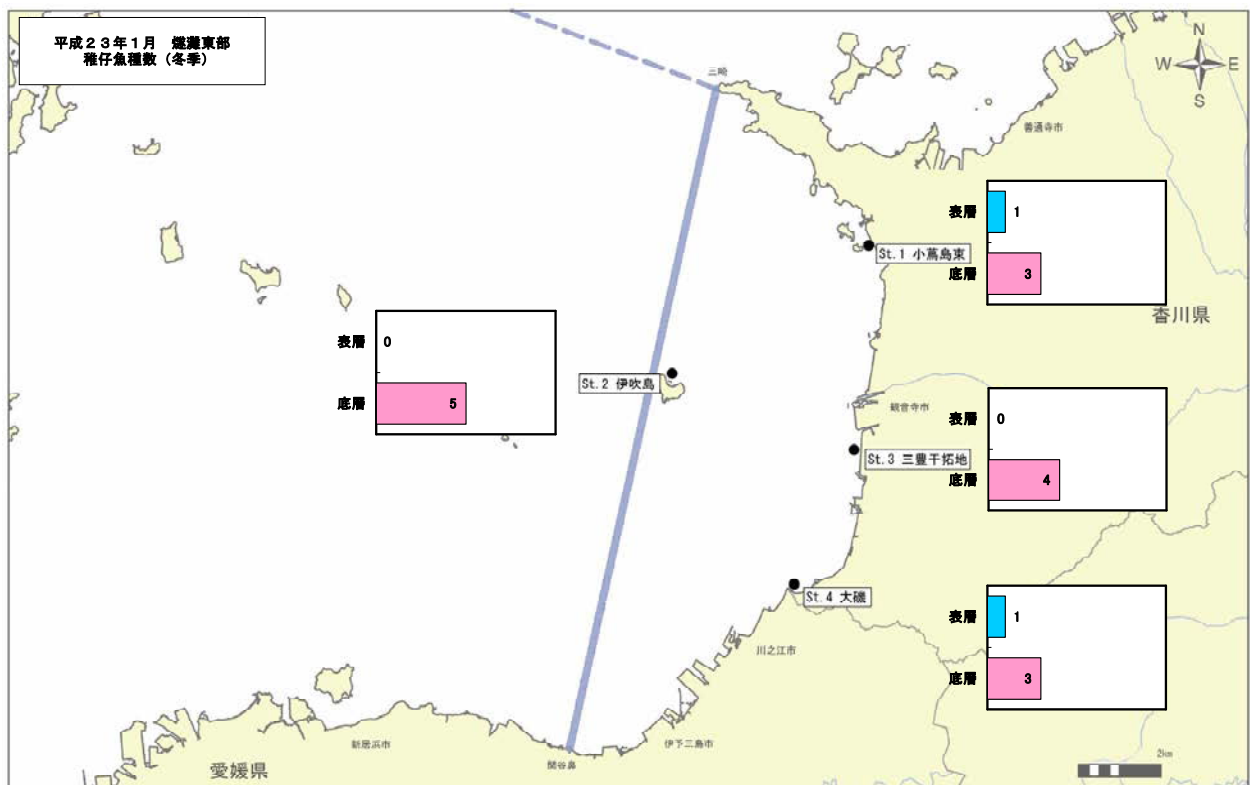
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (4) 魚卵個体数の出現状況 (冬季)



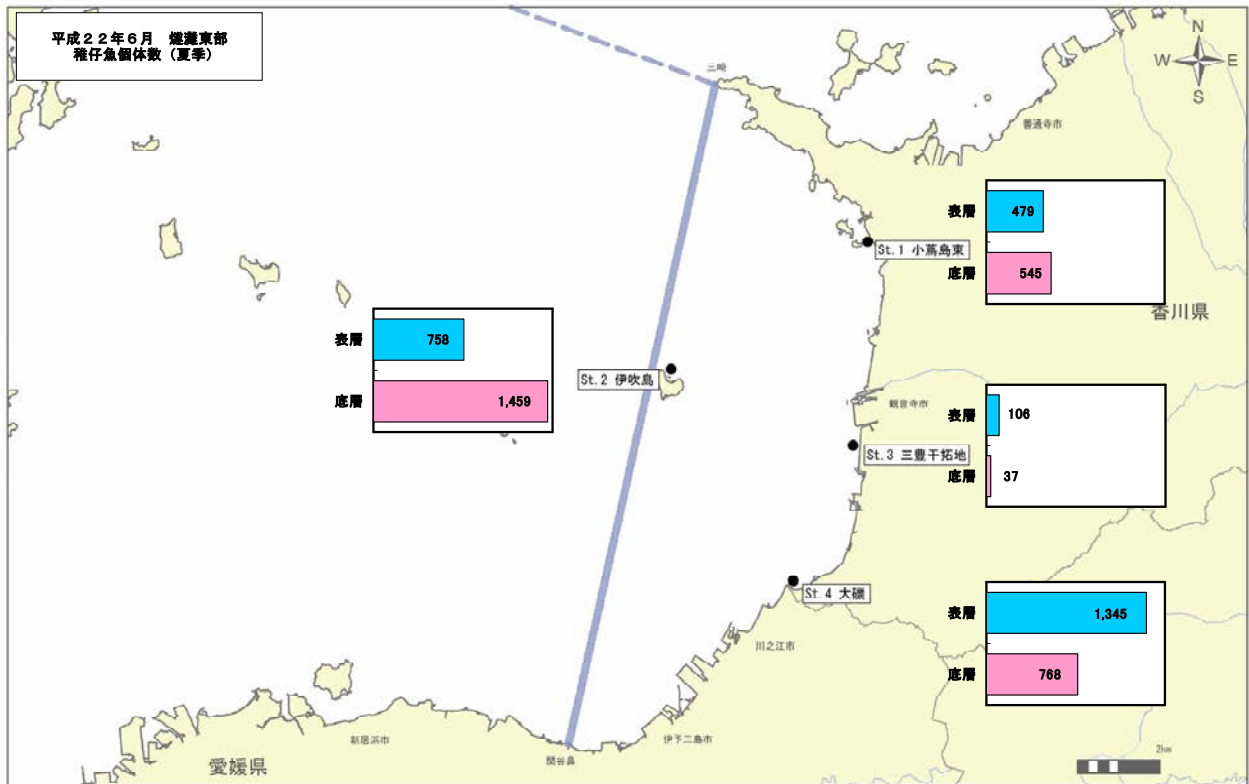
出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (5) 稚仔魚種数の出現状況 (夏季)



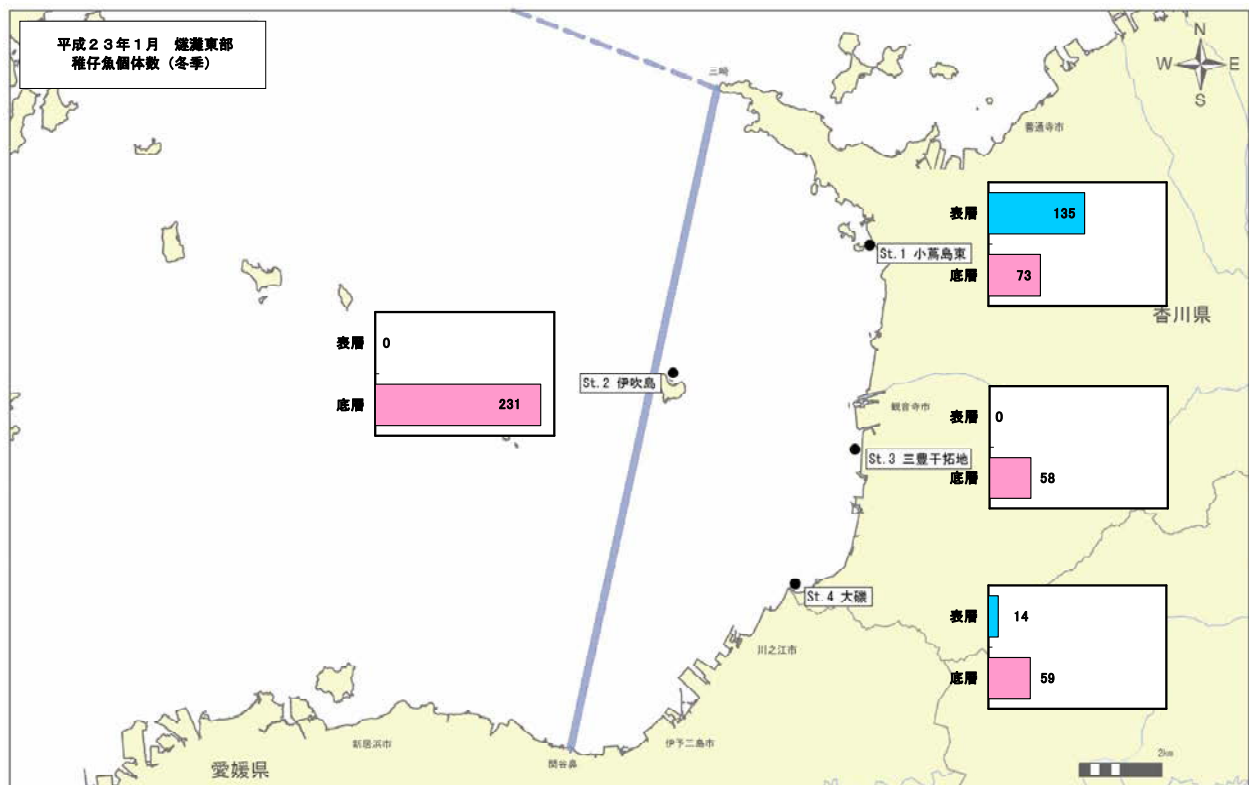
出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11 (6) 稚仔魚種数の出現状況 (冬季)



出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(7) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季)



出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

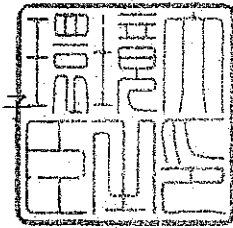
図 3.11(8) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季)



諮問第123号
環水企発第040827001号
平成16年8月27日

中央環境審議会会長
森 篤 昭 夫 殿

環 境 大 臣
小 池 百 合 子



水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定について（諮問）

環境基本法（平成5年法律第91号）第41条第2項第2号の規定に基づき、「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）別表2（生活環境の保全に関する環境基準）の1の（1）イ及び（2）ウ並びに同表の2のウに係る類型を当てはめる水域の指定について、貴審議会の意見を求める。

〔諮問理由〕

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する環境基準については、平成15年11月5日付けで、水生生物保全の観点からの環境基準を新たに追加設定したところである。

生活環境の保全に関する環境基準については、公共用水域の利用目的又は水生生物の生息状況の適応性に応じて水域類型が設けられており、水域類型の各公共用水域への当てはめは、政令で定める水域については政府が行うこととされている。

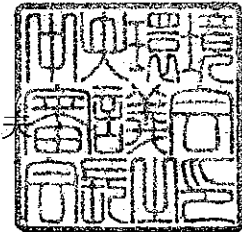
このため、水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定について、貴審議会の意見を求めるものである。



中環審第201号
平成16年8月27日

中央環境審議会水環境部会
部会長 村岡 浩爾 殿

中央環境審議会
会長 森島 昭夫



水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定について（付議）

平成16年8月27日付け環水企発第040827001号をもって、環境大臣より当審議会に
対してなされた標記諮問については、中央環境審議会議事運営規則第5条の規定に基づき、
水環境部会に付議する。

中央環境審議会水環境部会委員名簿

部会長	岡田 光正	放送大学教授、広島大学名誉教授
委員 (部会長代理)	浅野 直人	福岡大学法部教授
委員	大塚 直	早稲田大学大学院法務研究科教授
委員	中杉 修身	元上智大学大学院地球環境学研究科教授
委員	藤井 絢子	NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表
委員	鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
臨時委員	浅見 真理	国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官
臨時委員	石川 忠男	公益財団法人日本下水道新技術機構理事長
臨時委員	太田 信介	一般社団地域環境資源センター相談役
臨時委員	小倉 滋	一般社団法人日本鉄鋼連盟環境・エネルギー政策委員会副委員長
臨時委員	金澤 寛	独立行政法人港湾空港技術研究所顧問
臨時委員	兼廣 春之	大妻女子大学教授
臨時委員	白石 寛明	独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センターフェロー
臨時委員	鈴木 邦夫	日本製紙連合会副会長
臨時委員	竹村 公太郎	公益財団法人リバーフロント研究所研究参与
臨時委員	田村 洋子	全国地域婦人団体連絡協議会理事
臨時委員	永井 雅師	全日本水道労働組合中央執行委員長
臨時委員	中田 英昭	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授
臨時委員	長屋 信博	全国漁業協同組合連合会代表理事専務
臨時委員	西垣 誠	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
臨時委員	西川 秋佳	国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長
臨時委員	福島 武彦	筑波大学大学院生命環境科学研究科教授
臨時委員	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科教授
臨時委員	三隅 淳一	一般社団法人日本化学工業協会環境安全委員長
臨時委員	山室 真澄	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

中央環境審議会水環境部会

水生生物保全環境基準類型指定専門委員会委員名簿

委員長	須藤 隆一	東北大学大学院工学研究科客員教授
臨時委員	山室 真澄	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
専門委員	木幡 邦男	埼玉県環境科学国際センター研究所長
専門委員	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター教授
専門委員	谷田 一三	大阪府立大学名誉教授
専門委員	花里 孝幸	信州大学山岳科学総合研究所 山地水域環境保全学部門長
専門委員	藤井 一則	独立行政法人水産総合研究センター 経営企画部 評価企画課長
専門委員	藤田 豊久	東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻教授
専門委員	松田 治	広島大学名誉教授

審議経過

(諮問)

平成 16 年 8 月 27 日 中央環境審議会議長への諮問
平成 16 年 8 月 27 日 中央環境審議会議長から水環境部会長への付議

(第 1 次答申)

平成 18 年 4 月 28 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 18 年 4 月 28 日 中央環境審議会議長からの答申

(第 2 次答申)

平成 20 年 6 月 17 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 20 年 6 月 17 日 中央環境審議会議長からの答申

(第 3 次答申)

平成 21 年 7 月 21 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 21 年 7 月 21 日 中央環境審議会議長からの答申

(第 4 次答申)

平成 22 年 6 月 14 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 22 年 6 月 14 日 中央環境審議会議長からの答申

(第 5 次答申)

平成 24 年 3 月 7 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 24 年 3 月 7 日 中央環境審議会議長からの答申

(第 6 次答申)

平成 24 年 12 月 27 日 水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 24 年 12 月 27 日 中央環境審議会議長からの答申

(審議会の審議経過)

平成 25 年 12 月 11 日 第 27 回水生生物保全環境基準類型指定専門委員会
平成 26 年 1 月 22 日 第 28 回水生生物保全環境基準類型指定専門委員会
(平成 26 年 2 月 4 日 ~ 平成 26 年 3 月 5 日 意見募集)
平成 26 年 3 月 14 日 第 29 回水生生物保全環境基準類型指定専門委員会

(第 7 次答申)

平成 26 年 9 月 11 日 第 35 回水環境部会
水環境部会長から中央環境審議会議長への報告
平成 26 年 9 月 11 日 中央環境審議会議長からの答申